

第2章 市場の失敗と政府の役割

unit 4

Check 1 51 頁の第 2 パラグラフをみよ。

Check 2 52 頁の第 1 パラグラフから 53 頁の第 1 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 3 55 頁の最後のパラグラフから 57 頁の第 1 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 4 58 頁の第 2 パラグラフから第 3 パラグラフまでの部分をみよ。

unit 5

Check 1 61 頁の最後のパラグラフから 62 頁の第 2 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 2 63 頁の第 2 パラグラフ (2 行目以降) から 64 頁の第 1 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 3 喫煙権が認められる場合、愛煙家Aは最大で $OCEDQ^*$ 、最小でも OCQ^* の純便益 (余剰) を獲得し、嫌煙家Bは (たばこの大小により影響をうけない固定的な損害が存在しないと仮定すると) 最大で ODQ^* 、最小で OEQ^* の損害を被ることになる。一方、嫌煙権が認められる場合、愛煙家 A は最大 OCE 、最小ゼロの純便益 (余剰) を獲得し、嫌煙家Bは最悪の場合でもゼロの損害となり、その交渉力に応じて最大で OCE の純便益 (余剰) を得る。

unit 6

Check 1 72 頁の第 2 パラグラフから 73 頁の第 3 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 2 73 頁の第 3 パラグラフから 74 頁の第 2 パラグラフまでの部分をみよ。

Check 3 75 頁の第 2 パラグラフをみよ。

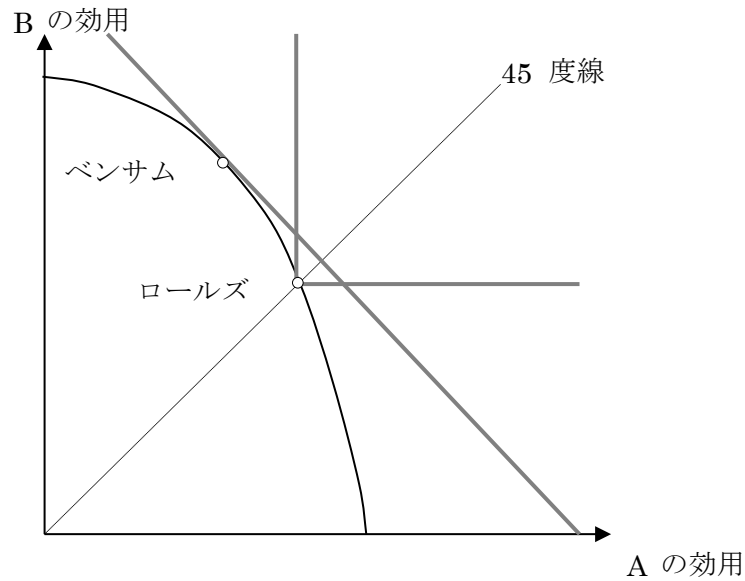
Check 4 76 頁の第 3 パラグラフから 78 頁の第 1 のパラグラフまでの部分をみよ。

Check 5 78 頁の第 2 パラグラフをみよ。

unit 7

Check 1 83 頁の第 2 パラグラフから 84 頁の第 2 パラグラフまでの部分のみよ。

Check 2 以下は同じ配分ではBがAより高い効用を得ていることを前提としている。



Check 3 unit 19 における労働所得税の効果 (231~235 (特に 234~235) 頁) が課税による歪みの例となる。移転・補助による歪みは unit 25 の図 25 - 1 (297 頁) を用いて説明できる。ここで、受給者が働いても無条件に Y_1 の給付を行うと、予算制約 AB は垂直方向に Y_1 上昇し、(消費も余暇も正常財であるならば) 点 C の右上で消費選択・労働供給を行うことになる。

ここで受給者は点 D よりも大きな効用を得ている。これは労働所得を得ても以前と同じ Y_1 の給付を得ているためである。しかし、新たな消費点でも点 D でも政府はこの受給者に対して Y_1 の支出をしていることには変わりがない。つまり、点 D では同額の費用を掛けながら、新たな消費点よりも低い効用しか達成されていないため、厚生損失が発生しているといえる。

unit 8

Check 1 92 頁の最後パラグラフから 94 頁の第 3 パラグラフまでの部分のみよ。

Check 2 97 頁の第 3 パラグラフから 98 頁の第 1 パラグラフまでの部分のみよ。

Check 3 98 頁の第 2 パラグラフのみよ。